

博士課程後期の心得

●学位論文に備える「論文投稿3報を目指す」

研究というと、とかく実験や分析などに注力しがちだが、論文として整理し発表してはじめて評価される。論文の執筆を怠るようでは、博士号は取得できない。3年目の終わりに博士学位の取得を目標にするならば、1年目と2年目から着実に論文発表を積み重ね、準備していく必要がある。研究分野でも異なるが、1年に最低1報は学会誌・論文誌等に投稿し、3年間で3報の採択を目標に据えるとよいだろう。3年目の早い時期に、それらを踏まえて内容を発展させると、学位論文に取り掛かりやすい。

研究分野等によって、必要な論文数や発表に適した学会誌などは異なり、内容もその分野の研究を着実に進めたといえるものでなくてはならない。一般的に、評価が高い研究テーマは達成が困難で、達成が容易な研究テーマは評価が低くなる傾向があるため、研究テーマはバランスを考えて選んだ方がいい。独りよがりにならないように、きちんと指導教員のアドバイスを受けよう。

さらに、研究者として認められるためには、論文だけではなく学会・討論会にも積極的に参加し、口頭での発表を行うことも重要だ。他の研究者からどのように評価されるかを知るよい機会であり、人脈を広げることは将来を考えると非常に重要である。

●研究室の仕事「研究室というチームの一員」

研究室を支える一員として、重要な役割を担うことを自覚しておきたい。指導教員や研究室が行う共同研究には積極的に参加し、他の院生や先生の主催する研究会や学会などの会合にも、できる限り出席すべきである。細かい作業にも進んで応じよう。すべて得がたい経験となる。

研究室では、後輩などと数人のチームを組んで研究を進めることが多くなるが、博士課程後期の学生には、リーダーとしての自覚と振る舞いが不可欠になる。後輩を指導しながら、計画を立て進行を管理し、チームでより多くの成果を目指す。ここでは、自己完結する勉強や受け身の協調性と異なり、自らが中心となり周囲をうまく巻き込み、目標に向けて物事を前に進める、そのような強い力が求められる。他人と協力しながらの作業は、思いのほか難しいが、将来どのような道に進んでも役に立ち、人生を左右するスキルと言っても過言ではない。「それは自分の仕事でははい」などと言って

積極性を欠くようであれば、いつまでたっても大きな成果は挙げられないだろう。一人ではできなくても、チームなら成し遂げられることは多い。

●知見を広げる「読書は深く広く」

「読書をしよう」と言われても、「時間がない」と思う大学生は少なくないだろう。でも本当にそうだろうか。中学生の頃も、テスト前に「時間がない」と言ってなかっただろうか。本当にそうだったか。将来振り返ってみて、時間ほど取り返しがきかず悔やまれるものはない。読書の良さは、いつでも読めることにある。インターネットも、検索性や即時性といった長所はあるが、情報の多くは不確かで浅く、散漫だ。精度やボリューム、保存性を考えると、書物には一日の長がある。常に読みかけの本を持ち歩くぐらいの姿勢は、何かを極めようとする者であれば心掛けておきたい。

研究分野に関する新着の本、専門誌、論文などは、こまめにチェックしよう。専門分野はある程度絞って、深く掘り下げる必要があるが、関連する他分野や時には研究とは関係の薄い分野を知ること、自分の「枠」を広げるために必要だ。

●知見を広げる「研究者との交流」

大学院の同期生や後輩だけではなく、先輩研究者などとも積極的に交流しよう。機会があれば、学外の人もコネクションをつくっておくとよい。お互いの情報を交換し周囲にアンテナを張ることができ、何よりモチベーションが高まる。研究に忙しいからといって、殻にこもらないように心掛けたい。交流の中から共同研究といった展開も生まれるだろう（ただし共同研究は慎重に精査し、指導教員に相談する必要がある）。学生の間はなかなか実感しづらいが、将来今の研究の道を歩み続けるならもちろん、たとえ違う道に進んだとしても、人とのつながりは重要である。役に立つ・立たないの二元論ではない。人間の豊かさを培う大切な素養であると考えたい。

●客観的な視点「広い知見は正確な“ものさし”になる」

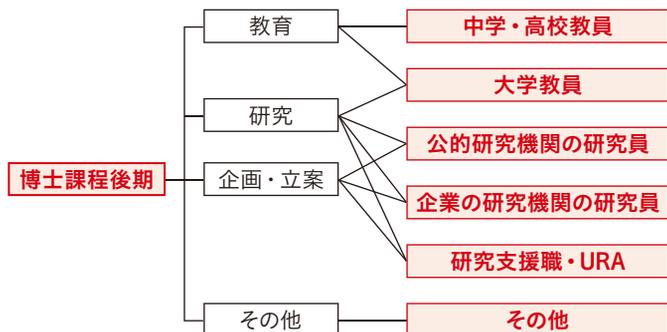
読書や交流には、単なる情報とは違う側面がある。物事を客観的に正しく捉え、バランスよく判断するには、基準となる正確な「ものさし」が必要だ。新しい知見を得ることで、自分の「ものさし」は修正でき、精度を保てる。いろいろな視点から測ることができれば、研究の成果も挙げやすく、新しい発見も生まれやすい。

さらには、自分が周りにどう見られているか、自分が周りをどう見るか、気付きや思いやりはできているかといった、人間性の向上にもつながるだろう。

民間企業 教員 ？ 公務員 研究所 ポスドク

●進路は広い視野で考える

進路には多彩な選択肢がある。教育や研究分野をはじめ、新しいものを生み出す企画・立案のブレインとしての仕事、高度な知識を持って研究を支援し、さらに社会へ展開していく仕事など、優秀な人材が求められている。一度就いた職が一生のものとは限らない。積極的にチャレンジし、キャリアを重ねてもらいたい。



●就職活動と学位論文の準備

民間企業への就職については、早めに意識して活動するのは良いが、就職は決まったものの、博士号を取得し博士課程を完了することができない場合がある。研究が最優先であることを心掛けながら、学位論文と就活は車の両輪のように進めよう。

学位論文は、提出までのスケジュールをよく確認しておくこと。大学や研究科によって異なるが、締め切りの数カ月前（3月修了なら秋頃）から、申請書や要旨・草稿といった提出物が求められ、本審査に合格し、教授会で承認されて博士号の取得となるが、それまでに予聴会や予備審査などがある。最終の提出締め切りの1～2カ月前には、最終稿に近い原稿ができていなければならない。

※詳細は異なる場合があるので、早めに確認しておくこと。

研究者の道は険しいのか？ 就職は厳しいのか？

博士課程後期修了後、ポスドクになる人の数は近年増加しているが、少子化の影響もあり、大学の教員といったアカデミックポストや公的研究機関のポストなど、恒久的な研究職の枠が大幅に増えることは考えにくい。

最近、博士課程後期への進学は、ポスドクをめぐる環境や研究職への就職の難しさからネガティブに言われることが多いが、研究者の道が険しいことは、今も昔も変わらない。第一線で活躍する研究者の多くも、相当な情熱や努力をささげ、不安定な生活の中で覚悟を決めて歩んできている。博士課程後期の学生が研究に向き合う環境は、各種助成が整備されている現在の方が、むしろ充実しているという見方もできる。研究分野の発展を推し進め、時に国や世界を変える可能性をも秘めた研究者は、誰でもなれるものではないが、そこに挑戦する敷居は下がっている。全力で自分の可能性を試した後、早めに軌道修正・方向転換することも可能だ。

博士課程後期の学生が民間企業への就職で苦勞するのは、忙しいことを理由に、いつか何とかなるだろうと将来への思考を停止し、目先のモラトリアムのような日々を漫然と過ごしているためであることが多い。何が何でも博士号を取るといふ強い意志はもちろんだが、客観的に自分を評価し社会を見渡す広い視野も備えておく必要がある。自分は何ができるのか、それは誰にどこで求められるのか、真剣に考えているだろうか。根拠のない自信とエリート意識だけが先走っていないだろうか。

博士は民間企業への就職が難しいという風説も絶えないが、博士号や博士課程後期といったキャリア自体が、就職において負のベクトルを生むことは通常ありえない。多くの問題は、企業とのミスマッチに起因する。ミスマッチは、研究と事業の整合、自己の能力、タイミングなどさまざまだが、だからこそ客観的に自分を評価しながら、社会を広く見渡しておきたい。

なお企業からは、博士課程後期修了者の専門的な知識や能力、研究の遂行能力、論理的思考力を高く評価される反面、コミュニケーション能力、協調性、業務の遂行について懸念される場合もあることを意識しておいた方がいいだろう。

進路については、PI12も参考にしていきたい。

●生計を立てる

博士課程後期は、いかに生活費を管理するかも重要だ。一般的には社会人の年齢なので、仕送りが受けられない場合も多いだろう。その場合は奨学金を利用することになるが、学費の納付まで考えると、生活を切り詰めないで難しく、奨学金も、いずれは返済しなければならないので、いくらでも借りれば良いというものでもない。

アルバイトが必要になるかもしれないが、深夜勤務など生活を乱し研究に支障を来すものはお勧めできない。あくまで研究を優先したい。大学には、TA・RAなどの制度もあるので、奨学金と組み合わせると、最低限の生活には困らないだろう。日本学術振興会の特別研究員は、生計を立てる上でも大きな支えとなるので、ぜひ挑戦してもらいたい。

- ▶奨学金について…PI09
- ▶TA・RA…PI10
- ▶特別研究員…PI10

●結婚、家事や育児とも両立できる

博士課程後期の年齢になると、一般的に結婚は珍しくない。結婚する場合は、家事をはじめ、出産や育児についても考えておくことが必要である。研究との両立には困難なことも多いが、不可能なことではない。両立させるには、家庭内で協力して家事や育児を分担し、周囲の理解を得て支援を仰ぐことが不可欠だ。

現在は、社会全体で男女共同参画が推進されている。家事や育児は、男女にかかわらず分担するのが当たり前である。平等に分かち合おう。

●健康管理 睡眠・食事・運動

研究が忙しくなり没頭すると、気を付けておきたいのが健康管理だ。睡眠不足や運動不足、栄養失調または逆に過食といった状態に陥りやすくなる。過度のストレスも掛かっているかもしれない。睡眠時間はきちんと確保すること。睡眠不足が続くと、研究の効率も著しく悪くなる。インスタント食品やスナック菓子などは控え目にし、食事のバランスに気を付け、適度な運動を心掛けよう。

●TOEICとTOEFL

論文の読み・書きはもちろん、発表や海外の人とのコミュニケーションなど、英語力を求められる場面は非常に多い。最先端の研究に取り組むには、英語力は不可欠だ。就職や留学などでは、TOEICやTOEFLの成績が求められることが多いので、これらの試験を当面の目標にして、英語力を培っておこう。

将来、進む道によっては、英語以外の言語が重要になることもある。言語の取得には時間が掛かるので、計画的に取り組もう。

【TOEIC / トーイック】

日本企業への就職で重視されることが多いのは、TOEICだ。990点満点で730点以上がレベルB「どんな状況でも適切なコミュニケーションができる素地を備えている」の評価で、レベルB以上の点数を取れば、十分アピールになるだろう。一般的には、600点くらいから履歴書でプラス評価になると言われるが、博士課程後期であれば、レベルB程度の点数を獲得できる英語力を身に付けておきたい。

TOEIC公開テストは、大学のキャンパスも会場の一つとなっているので受験しやすい。Official Score Certificate (公式認定証)は発行されないが、大学などが運営するTOEIC IP (団体特別受験制度)や大学生協が運営するカレッジTOEICもあるので、適宜利用したい。

【TOEFL / トーフル】

TOEFLは、英語圏の大学においての留学や研究を希望する者を主な対象としている。英語圏の大学で使われる専門単語を多く含み、アカデミックな内容になっているので、語彙の難易度はかなり高い。国内での知名度はTOEICに比べると低いが、海外ではTOEFLの方が認知度が高く、TOEFLの成績を求められることが多い。

受験料が比較的に高く、受験1～2回目が良いスコアを取るのには難しいので、大学などで行っているTOEFL模試を受けて、慣れておくとういだろう。

●論文について

まず規定のフォーマットを確実に守ること。決められたルールで表記できていないと、執筆能力が疑われる。その上で、「読んでもらい、同意を得て説得すること」を意識し、読み手の立場で丁寧に書かなければならない。

以下に、よくある不備や間違いをもとに、注意点をまとめている。

全 体
表紙、抄録、目次、文献リストなどは、漏れなく規定どおりにそろえる。
所属や連絡先などは正確に表記する。連絡先の住所は、所属部署のものを書く。
きちんと校正し、誤字脱字、英文のスペルミスをなくす。
すでに投稿・発表されている内容は使用しない。
実験や研究が倫理的配慮を要する場合は、その内容を記載する。
表 記
フォントやフォントサイズ、余白は、見やすく統一する。
句読点、引用符、記号、囲み数字などは表記を統一する。全角/半角も統一する。
ページ番号や図表番号は順番に通し、抜けがないようにする。
数値がある図表には必ず単位を記し、グラフには座標軸を入れる。
文 章
目的、対象と方法、結果、考察、結論などが、分かりやすいように記述する。
文脈に関係の薄い内容や修飾語は削除し、なるべく簡潔な文章にする。
図表は本当に必要か検討し、必要性の低いものは削除する。
主語や述語は明確にし、複数の解釈ができるあいまいな表現はしない。
同じ趣旨の文章が、繰り返し書かれていないか確認する。
内容のまとめりごとに、適宜段落を変える。
引 用
図表や写真を引用した場合は、転載許可を取り、引用であることを明記する。
引用した文献は、勝手に改変せずに原典と相違ないように掲載する。
引用した文献は、もれや重複がないように文献リストに掲載する。

※詳細は提出先で異なるので、執筆時にはよく確認すること。

●researchmapに登録する

researchmap (新世代研究基盤リード&リサーチマップ) は、独立行政法人科学技術振興機構が提供している、研究者向けのWebサービスである。研究者や研究コミュニティを検索でき、新着の研究・講義資料やセミナー・シンポジウムなどの情報が掲載されている。

研究者としてIDをつくり登録すると、そこに自分の研究ホームページ「マイポータル」を公開できる。マイポータルには、履歴書のテンプレートが備えられており、経歴・研究分野・研究キーワード・論文リスト・講演リストなどを発信できる。他にも便利な機能が充実しているので、登録し活用したい。就活ツールとしての活用も期待できる。

http://researchmap.jp/

登録した研究者が、検索できるようになっている。

博士課程後期の学生支援

●未来を拓く地方協奏プラットフォーム

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」は、文部科学省の実施する科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業*1「次世代研究者育成プログラム」の取組で、「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」をテーマに、広島大学・山口大学・徳島大学が共同実施機関となり（代表機関は広島大学）、連携機関*2には中四国のさまざまな大学、関西からは立命館大学、そして多くの企業や公的機関の協力を得て実施している。

本プログラムでは、これらの大学と企業、公的機関等が産官学コンソーシアムを構築し、「イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム」と「テニュアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム」の2つのプログラム、およびこれらを支える広域プラットフォームを中心に展開する。

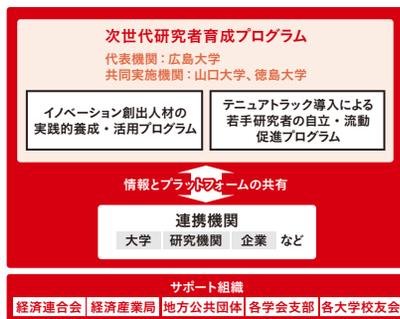
具体的には、長期インターンシップ、シーズ・ニーズの出会いの場の提供、文理融合での人材育成やマッチング支援などにより、博士課程後期の学生、ポスドクター、テニュアトラック研究者に対して、各キャリア段階に応じた支援をシームレスに行っていく。

*1 「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業」とは、文部科学省が平成26年度新規事業として実施するもので、複数の大学等でコンソーシアムを形成し、企業等とも連携して、若手研究者や研究支援人材の流動性を高めつつ、安定的な雇用を確保しながらキャリアアップを図る仕組みを構築することを目的とした事業。

*2 詳細はホームページ「HIRAKU」を参照のこと。

HIRAKU ホームページアドレス▶<http://home.hiroshima-u.ac.jp/hiraku/>

未来を拓く地方協奏プラットフォーム



●イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム

○プログラムの内容

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」に所属する若手研究者（博士課程後期学生を含む）が、地域や国際社会を変革するイノベーターとして自立するために、実践的な養成環境を提供する。企業や自治体等との連携により、共同研究やPBL (Problem Based Learning/Project Based Learning) に基づくインターンシップ派遣の形で、実際の事業や地域社会における課題解決に貢献する機会を提供していく。また、このような社会の多様な場での活躍を可能とするトランスファラブルスキル（移転可能なスキル）の養成により、若手研究者の実践的な養成と効果的な活用を図る。具体的な取組は、4つの視点で行う。

1. 若手研究者の研究力・企画力の養成

若手研究者のスキルを適正に指標化し、文理融合で育成・活用するための共同プラットフォームを構築する。社会の多様な場での活躍を可能とするトランスファラブルスキル（移転可能なスキル）養成講座など、実践的な研究力の獲得と研究の効果的な活用を目指した養成科目を展開する。さらに各機関でも相補的・相互的に協力し、人材や資源を活用していく。

2. 長期インターンシップ派遣（2カ月以上）

若手研究者の長期インターンシップは、単なる就業体験ではなく、実際の企業や社会の抱える課題の解決やイノベーション創出へつなげることを目指して実施する。

3. シーズ・ニーズの出会いの場の提供

共同プラットフォームなどを活用して、人材および研究シーズ・ニーズの情報共有を図る。さらに、大学・企業間での分野/文理融合による対話型ワークショップや、企業人材セミナー、シーズ発表会、起業化/博士研究コンペなど、スキル開発・ネットワーク構築・理解増進を目的とした関連イベントも開催する。

4. マッチング支援

長期インターンシップや、クロスアポイントメント、共同研究、就職支援など、産官学によるコンソーシアムおよび共同プラットフォームを駆使して、若手研究者の可能性を広げる。

※詳細は「未来を拓く地方協奏プラットフォーム HIRAKU」のホームページで確認できる。

●テニュアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム

○プログラムの内容

連携機関を中心に、有望な若手研究者を国内外から共同で公募・選考し、テニュアトラック研究者として採用する。採用後は、PI(研究室主催者)として自立した研究活動が行える環境が用意される。多様な雇用・流動形態(ラボローテーション、クロスアポイントメント含む)の導入により、他機関の研究者とのネットワーク構築、武者修行の場を提供し、最終的な受け入れ先とのマッチングを図る。採用においては、優秀な女性の活躍の機会をふやすために女性枠も設けられる。



テニュアトラック教員には、以下のような助成がある。

- ①URAと研究事務補助員を配置し、研究に専念する環境と研究推進支援体制を提供する。
- ②スタートアップ研究費として2年間で700万円程度、国内外の学会等参加費用として年間100万円程度を助成する。^{*1}
- ③各機関のニーズや研究者本人のキャリア発展に資する場合に、複数機関で「ラボローテーション」を実施し、移動費用の助成も行う。
- ④共同実施機関内で若手研究者を雇用したままの「共同実施機関以外の機関への派遣」を可能にする。
- ⑤研究者の年俸を複数機関でシェアし、シェアに応じて一定期間を異なる機関で研究活動に従事できる「クロスアポイントメント」を実施する。
- ⑥研究環境や研究の積極的展開に関して、随時相談できるメンターを配置する。
- ⑦中間評価および最終評価によって審査およびマッチングを行い、適材適所の雇用の機会を創出する。

*1 交付額により変更の可能性がある。

●奨学金

奨学金には、日本学生支援機構(旧日本育英会)の奨学金と、民間および地方公共団体の奨学金がある。

※大学等によって異なる場合があるので、学生支援の窓口等で確認すること。

【日本学生支援機構奨学金】

優れた学生でありながらも、経済的理由により修学が困難な人に対して、日本学生支援機構が学資の貸与を行っている(申請時期:4月)。修士・博士課程に関する奨学金の概要は表のとおりである。奨学金を希望する場合、返還方法なども充分に考えた上で申し込むこと。

なお、会社の倒産や解雇など、家計支持者の諸事情により家計が急変した場合は、いつでも申請できるので、奨学金窓口にご相談すること。

		第一種(無利子)	第二種(有利子)	入学時特別増額貸与(有利子)
課程・月額等	修士・博士課程前期	8万8千・5万円から選択	5・8・10・13・15万円から選択(金額により採用の有利・不利はありません。)	10・20・30・40・50万円 (27年度に入学した者のみが対象で、第一種または第二種の基本月額に増額して最初の1回のみ貸与)
	博士課程後期	12万2千・8万円から選択		
	博士医歯獣医薬学課程			
	専門職学位課程(法科大学院)	8万8千・5万円から選択	上記のほか、15万円を選択した場合、4万円または7万円のいずれかを増額できる。	
貸与始期		4月	4~9月の間で希望する月	入学時のみ
初回振込予定日		7月10日(予定)		

※掲載している情報は、平成27年1月現在の予定であり、変更の可能性がある。

【民間・地方公共団体の奨学金】

企業系財団など民間の奨学金には貸与と給付の2種類があり、そのうち給付奨学金は推薦枠に限られるため、多くの場合、事前に選考が行われる。

その他、全国の各種育英団体が実施する奨学金制度なども、大学を通して募集するものは、ほとんどが4月から6月の募集となる。大学のホームページや担当窓口などで、早めに確認しておくこと。

●授業料免除制度

経済的理由などにより授業料の納入が困難な人で、一定の学力基準を満たしている場合、所定の申請を行うことで、授業料の全額または半額の免除を受けられる場合がある。

※大学等によって異なる場合があるので、学生支援の窓口等で確認すること。

●TA・RA

学生が実験や研究の補助業務、大学運営の支援業務を行う、TA（ティーチング・アシスタント）、RA（リサーチ・アシスタント）といった制度がある。就労体験の機会になり、自己の成長へつなげられ、手当も支給されるので経済的支援という一面も備えている。

TAは、学部・学生等に対するチュータリング（助言）や実験・演習等の教育補助業務を行い、RAは、研究（リサーチ）に特化した補助業務に従事する。大学によっては、独自の制度を実施している場合もあるので、大学のホームページや担当窓口などで確認すること。

●特別研究員-DC1/DC2/PD/SPD/RPD

独立行政法人日本学術振興会が、大学院博士課程在学者および大学院博士課程修了者等で、優れた研究能力を有し、大学その他の研究機関で研究に専念することを希望する者を選考の上「特別研究員」に採用し、研究奨励金を支給している。

若手研究者の研究生活の初期に、自由な発想のもと主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、わが国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資することを目的としている。人文・社会科学および自然科学の全分野を対象にした競争的研究助成制度である。研究者を目指す上で、キャリアパスの一つとなりえるものでもあるので、博士課程後期に進み研究に携わる学生とし

採用区分	採用予定数※1	期間	研究奨励金※2
DC1（大学院博士課程在学者）	約700名	3年間	月額200,000円
DC2（大学院博士課程在学者）	約1,100名	2年間	月額200,000円
PD（大学院博士課程修了者等）	約350名	3年間	月額362,000円※3
SPD（大学院博士課程修了者）	約18名	3年間	月額446,000円
RPD（博士の学位取得者※4）	約50名	3年間	月額362,000円

※1 採用予定数は予算状況で変更される。（平成28年度の予定）

※2 研究奨励金は、平成28年度の支給予定額で、変更になる場合がある。

※3 博士の学位を取得していない者は月額200,000円。

※4 申請時には、見込みでもよい。人文学・社会科学の分野においては、わが国の大学院博士課程に標準修業年限以上在学し、所定の単位を修得の上退学した者で、博士の学位を取得した者に相当する能力を有すると認められる者も含む。

ては、難関ではあるがチャレンジする価値がある。特別研究員になると、科学研究費補助金（特別研究員奨励費）への応募資格も与えられる。

また過去5年以内に、出産または子の養育のため、おおむね3カ月以上やむを得ず研究活動を中断した者を対象とした、RPDという制度も用意されている。

特別研究員についての詳細や申請手続きなどについては、日本学術振興会のホームページに掲載されているので、目を通しておくことを勧める。

<http://www.jsps.go.jp/j-pd/>

●長期インターンシップ

○概要

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」では、若手研究者が実際の企業や社会の課題解決に貢献しつつ、実践的な能力の養成とキャリアオプションの拡大を図ることを目的として、長期インターンシップ派遣を実施している。派遣先は、国内外の民間企業、公的機関、非営利団体、国際機関、初等・中等教育開発機関など、従来のアカデミックキャリアとは異なる場、あるいは異分野・異業種でのインターンシップを奨励している。派遣先については、次の2通りの選択肢を用意しており、特に①の応募者については、優先的に選考される。

①受入先に具体的な企業等がある場合

②上記以外（個別面談を通じて派遣先のマッチングを図る）

○対象

広島大学、山口大学、徳島大学および連携機関に在籍中の博士課程（博士課程前期を除く）の学生、あるいは博士課程（博士課程前期を除く）修了後5年程度以内の任期付研究者で、国内外の企業・研究機関等において、2カ月以上のインターンシップに従事することが可能な方を対象にしている。

○募集について

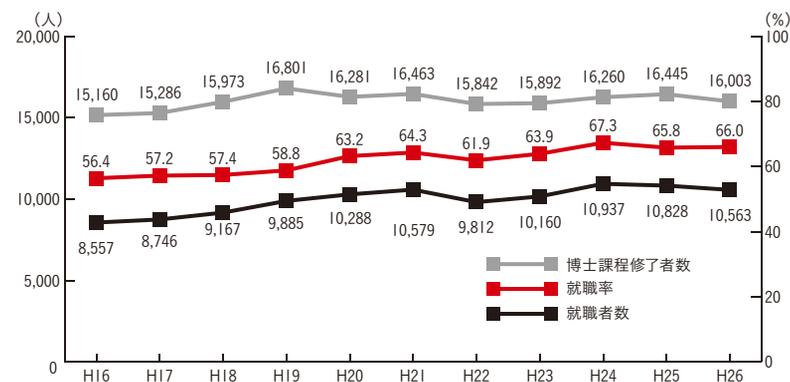
随時、募集が行われるので、「未来を拓く地方協奏プラットフォーム HIRAKU」のホームページ等で確認すること。

●海外への留学や海外インターンシップ

各種の留学制度が大学で実施されているので、積極的に利用するとよい。語学やコミュニケーションの上達だけでなく、あいまいで画一的だった海外への理解が一変し、グローバルに活躍するための素地を築くのに有効である。海外の協定大学への留学では、単位の認定を受けられる場合もある。

●博士課程後期の就職状況

博士課程後期の就職率は年によってばらつきがあるものの、近年上昇傾向にある。博士課程後期の就職は、根拠もなく困難と言われることが多いが、統計データからは、その評価が上がっていることも読み取れる。



※博士課程の「修了者」には、所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得した後、学位を取得せずに満期退学した者を含む。

資料：文部科学省「平成26年度学校基本調査」

●平成25年度 博士課程修了者の職業別就職者数

区分	計	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	家政	教育	芸術	その他
就職者数 (平成26年3月)	10,563	405	525	879	2,443	583	4,291	45	199	44	1,149
うち専門的・技術的職業従事者	9,740	336	357	813	2,241	525	4,203	43	176	39	1,007
研究者	2,597	57	56	436	853	282	471	5	20	1	416
農林水産技術者	38	—	—	1	1	23	1	—	—	—	12
製造技術者 (開発)	749	1	1	105	469	22	61	1	—	—	89
製造技術者 (開発除く)	114	—	—	13	55	4	31	—	—	—	11
建築・土木・測量技術者	153	—	1	1	120	8	—	3	—	—	20
情報処理・通信技術者	199	1	4	36	128	3	2	—	1	—	24
その他の技術者	207	1	5	46	86	16	19	—	1	—	33
教員	2,784	223	256	131	487	108	1,064	26	126	33	330
(うち大学教員)	2,463	179	237	89	431	103	1,018	20	97	24	265
医師、歯科医師、獣医師、薬剤師	2,339	—	—	—	—	48	2,286	—	—	—	5
保健師、助産師、看護師	46	—	1	—	—	—	41	—	3	—	1
医療技術者	153	—	—	—	7	1	143	—	—	—	2
その他の保健医療従事者	60	—	2	2	5	1	27	5	10	—	8
美術・写真・デザイナー・音楽・舞台芸術家	6	—	—	—	1	—	—	—	—	—	5
その他の専門的・技術的職業従事者	295	53	31	42	29	9	57	3	15	5	51

※この表の就職者数には、進学しかつ就職した者を含む。専攻分野の分類は「付属資料—学科系統分類表」による。

資料：文部科学省「平成26年度学校基本調査」

税金・確定申告・健康保険・年金

当項目の内容は、平成27年3月時点の情報をもとに概略を表している。詳細な条件や制度変更などにより実際と異なることがあるので、正確な情報は各自で確認すること。年金・健康保険については、大学の学生支援の窓口等で相談するとよい。

●所得税と親等の扶養控除

年間の収入が一定の金額を超えると、所得税の支払いが必要になり、親等の扶養控除の対象から外される。扶養控除の対象から外れると、多くの場合は親等の支払う税額が上がる。なお、日本学術振興会特別研究員の研究奨励金も、給与所得とみなされる。

所得税の例

①収入が103万円以下の場合

所得税 = 0円

親等の「扶養控除」の対象になる。

②収入が103万～130万円以下の場合

所得税 = 0円

親等の「扶養控除」の**対象にならない**。

大学生は、勤労学生控除(27万円)が適用でき、所得税は130万円まで控除できるが、親等の扶養から外れる。※勤労学生控除については右ページを参照。

③収入が、130万円を超える学生

所得税 = 130万円を超えた分に対してかかる。

親等の「扶養控除」の**対象にならない**。

130万円を超えた分に対して所得税を課税される。確定申告を行えば、支払った所得税の一部が還付される場合がある。※確定申告については右ページを参照。

●住民税

所得税と同様に、年間の収入が一定の金額を超えると、住民税の支払いが必要になる。自治体によって異なるが、例として東広島市の場合、勤労学生控除を含むと124万円までの収入では、住民税の負担は生じない。

●勤労学生控除

大学生は、所得税で27万円、住民税で26万円を控除でき、負担が生じない金額が、所得税で103万円→130万円以内、住民税(東広島市の例)で98万円→124万円以内となる。ただし、支払い元の会社などで勤労学生控除が適用されていない場合は、確定申告を行わなければならない場合がある。

●年末調整と確定申告

アルバイトなどでも、収入によっては、源泉徴収により所得税を引かれる。源泉徴収は、税金の仮払いのような状態なので、これを正確な金額で確定させるためには、年末調整もしくは確定申告が必要となる。アルバイト先などで年末調整が行われない場合や、複数の収入先がある場合などは、確定申告を行う(大学が主たる事業主の場合は、大学が年末調整を行う)。収入が年間130万円以下の場合や、国民年金と国民健康保険を自費で支払っている場合など、税金の還付を受けられる場合があるが、確定申告を行わないと、払い過ぎた税金は返ってこない。

●健康保険と扶養

親等の扶養者が、勤務先で健康保険に加入している場合、収入が年間130万円(異なる場合があるの確認が必要)を超えると扶養にならなくなる。その場合は、国民健康保険に加入し、保険料を支払う必要がある。

●国民年金と学生納付特例

本人の前年度の収入が118万円以内の場合、学生納付特例により国民年金の支払い猶予を受けられる。ただしこの特例を受けていても老齢基礎年金は減額されるので、経済的に余裕がある場合は保険料を納付しておこう。特例を受けた場合も、10年以内に猶予期間の保険料を追納すれば、老齢基礎年金は満額を受け取れる。